



半年前の発表内容

東亜ディーケーケー(株) (東証一部: 6848)

平成27年12月3日

機関投資家向け会社説明会

世界に“役立つ”  
企業を目指す

過去

現在

世界最高水準の  
“頭脳集団”を目指す

未来

発表者 代表取締役社長 佐々木 輝男

企業合併“15年”改革の歩み



今回の発表内容

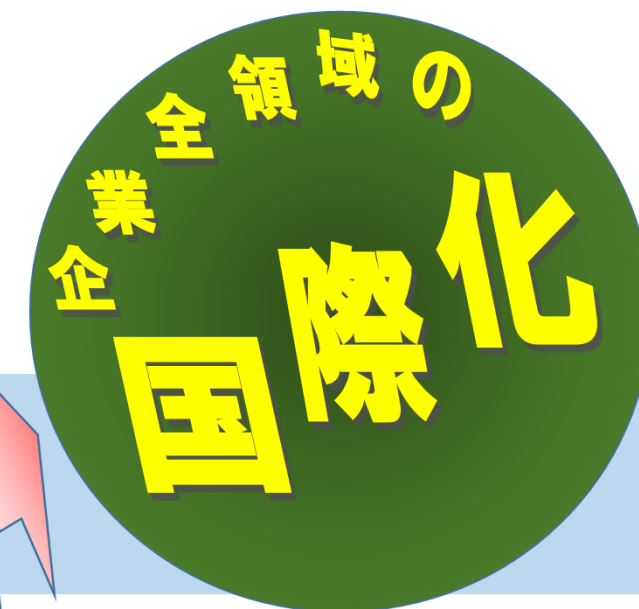
東亜ディーケーケー(株)

(東証一部：6848)

平成28年6月2日(木)

機関投資家向け会社説明会

世界に“役立つ”  
企業を目指す



世界最高水準の  
“頭脳集団”を目指す

発表者 代表取締役社長 佐々木 輝男

東亜D K Kの進化と未来へ加速する経営

- 1. 東亜DKKの進化と未来へ加速する経営**
- 2. 平成28年3月期決算概要**
- 3. 平成29年3月期業績予想**
- 4. 第2次HYBRID経営計画（中期経営計画）**

－お客様・株主様・社員、そして世界の人々を元気にさせる経営－

## 強みと特徴

- 1、研究・開発型の企業を目指し環境・医療で国際貢献。
- 2、営業から開発・生産・据付に至るまで自社一貫体制。
- 3、特徴ある関連子会社（6社）の強力な自立生産体制。
- 4、米国HACHとの資本提携で国際ビジネスの展開。
- 5、一流のお客様とお取引をさせて戴いている企業環境。

## 課題の解決

- 1、新分野開拓（臨床医学・酪農・畜産等）と製品開発。
- 2、独自製品の開発投資拡大で収益力と財務体質強化。
- 3、企業全領域を国際化し海外で活躍できる人財の育成。
- 4、国際市場での販売・生産拠点整備と売上高の拡大。
- 5、女性の幹部育成とシニアが活躍できる環境の整備。

当社の強みを生かした成長戦略と課題の解決

－挨拶からCSに至るまで“企業全領域の品質革命”で企業価値の向上－



# 東亜DKKの進化と未来へ加速する経営③



—環境と医療の独自製品開発で財務基盤強化と国際貢献—



－お客様の期待に応える“戦略的投資”で明るい話題を世界に発信－



次世代につなぐ“4本の矢”で未来を創造する経営

## まとめ

### “社員革命”で新しい風を吹き込み“全員総活躍”の経営

- 1、お客様・株主様・社員の声を成長の原動力とする限界突破の経営。
- 2、現事業3本柱に成長市場の医療事業を加え4本柱に事業拡大する。
- 3、企業の未来を変える3本の矢“開発・海外・人財”に重点投資の経営。
- 4、グループ全社員の仕事を全世界に拡大、無限のお客様を創り出す。
- 5、新分野開拓で売上高の拡大を図り、頭脳集団で収益力の拡大を図る。
- 6、女性部隊が改革の中心となり、海外で戦い活躍できる人財の育成。
- 7、世界最高水準の頭脳集団をつくり世界に役立つ企業を創造する。

—お客様・株主様・社員の喜びを企業の喜びとする経営—

社長就任“10年目の決意”と次世代につなぐ経営

# 平成28年3月期決算概要



- 売上高は、計測機器事業(国内微増、海外増進)と不動産賃貸事業(増収)で増収
- 利益は、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも対前期比で増益
- 経常利益率は9.9%(前期9.2%)、ROE(自己資本利益率)7.6%(前期6.5%)共に改善
- 単月黒字化79ヶ月連続記録達成更新中(平成21年9月から6年7ヶ月)

(単位:百万円)

|        | H27.3 実績 | H28.3 実績 | 前期比増減 |       |
|--------|----------|----------|-------|-------|
|        |          |          | 金額    | %     |
| 計測機器事業 | 13,812   | 14,062   | +250  | +1.8  |
| 不動産賃貸業 | 253      | 264      | +11   | +4.3  |
| 売上高    | 14,066   | 14,326   | +260  | +1.9  |
| 営業利益   | 1,265    | 1,367    | +102  | +8.1  |
| 計測機器事業 | 1,139    | 1,256    | +117  | +10.3 |
| 不動産賃貸業 | 147      | 161      | +14   | +9.5  |
| 経常利益   | 1,287    | 1,418    | +130  | +10.2 |
| 当期純利益  | 759      | 931      | +172  | +22.7 |

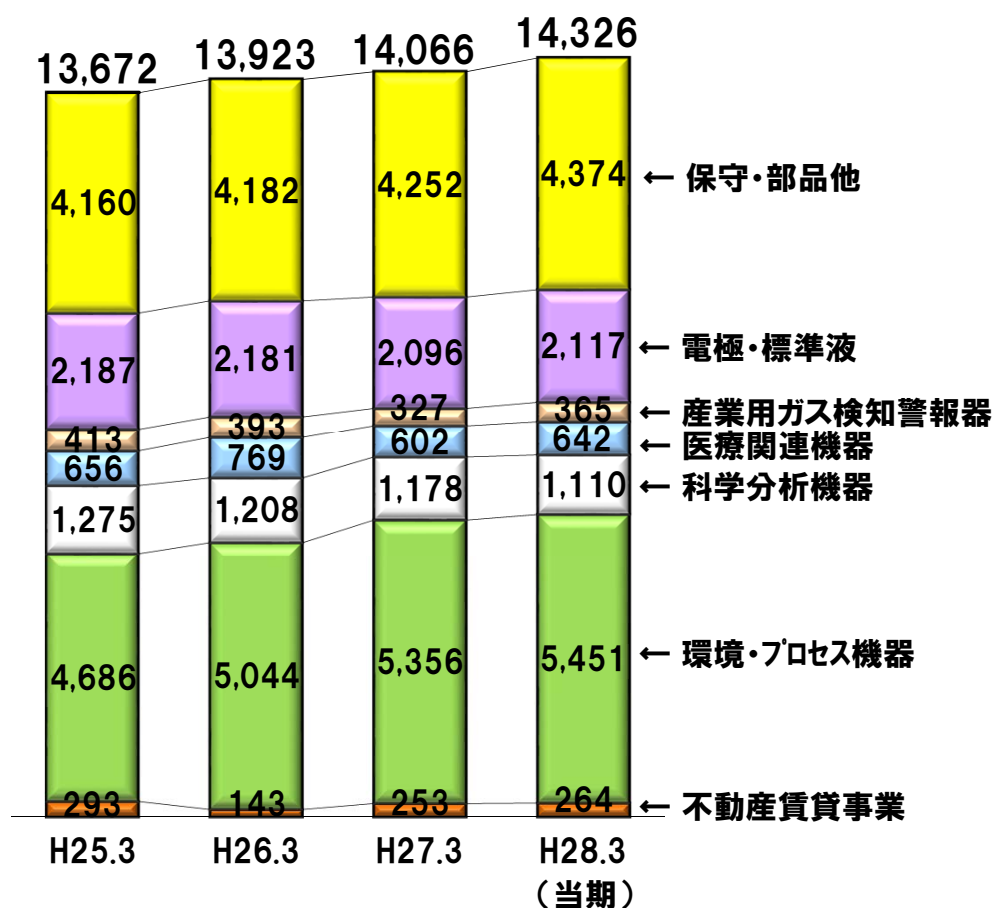
(注)表示単位未満を切り捨て

# 事業分野別売上高構成比推移



## 売上高構成比推移

(単位：百万円)



### ■環境・プロセス分析機器(前期比+1.8%)

- 上下水道用分析計の減少
- プロセス計測器及び環境用水質分析計が増加。特に、海外において受注活動を積極的に展開した結果、中国(環境用水質)を中心に好調裡に推移し増収。

### ■科学分析機器(前期比△5.8%)

- ラボ用分析機器は、新製品(Xシリーズ)が寄与し増加。
- ポータブル分析計は前期大口特需をカバーできず減収。

### ■医療用関連機器(前期比+6.6%)

新モデルの投入が寄与し増収。

### ■産業用ガス検知警報器(前期比+11.7%)

顧客需要の掘り起こしにより著増。

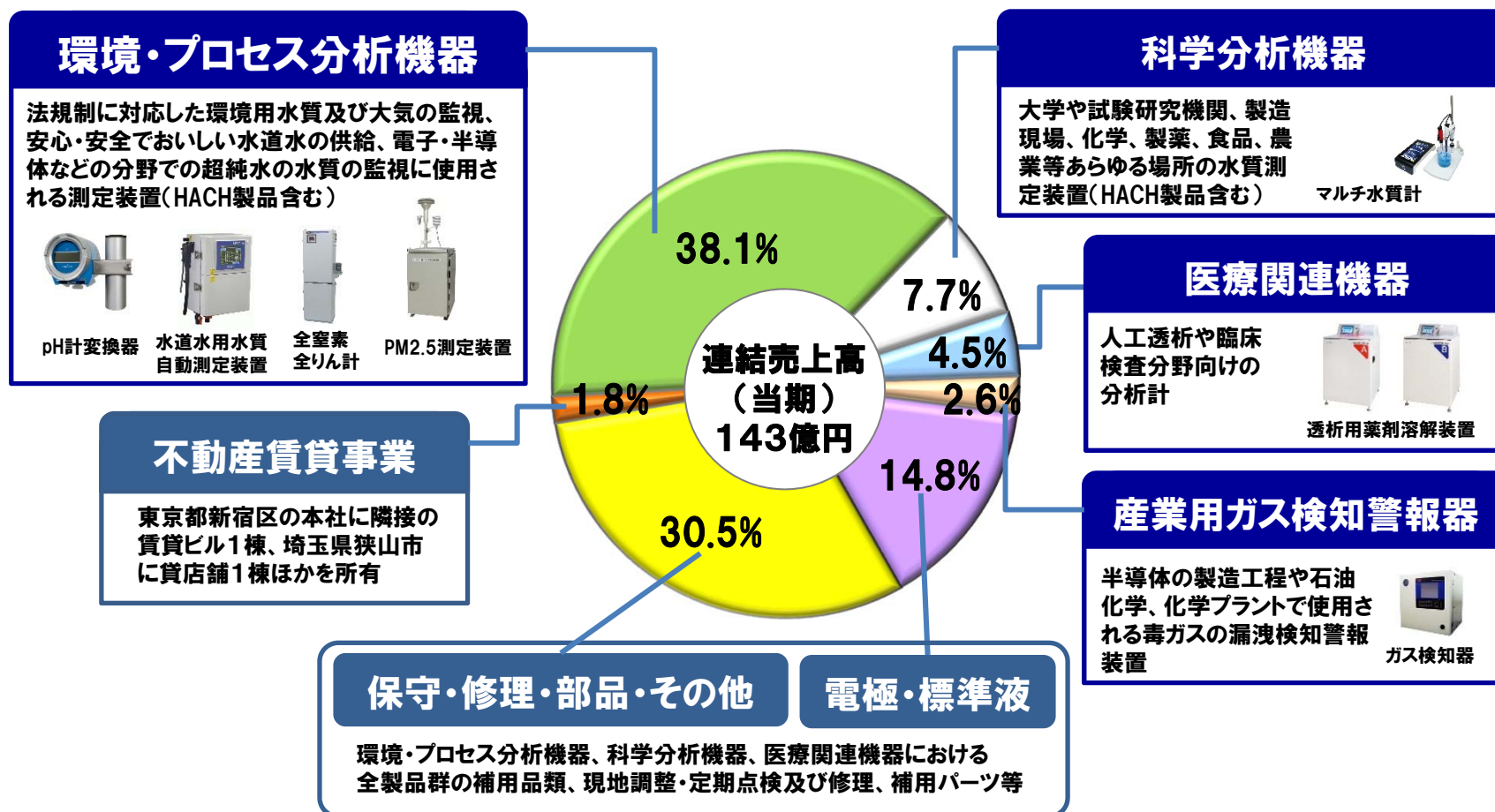
### ■電極・標準液(前期比+1.0%)

### ■保守・部品他(前期比+2.9%)

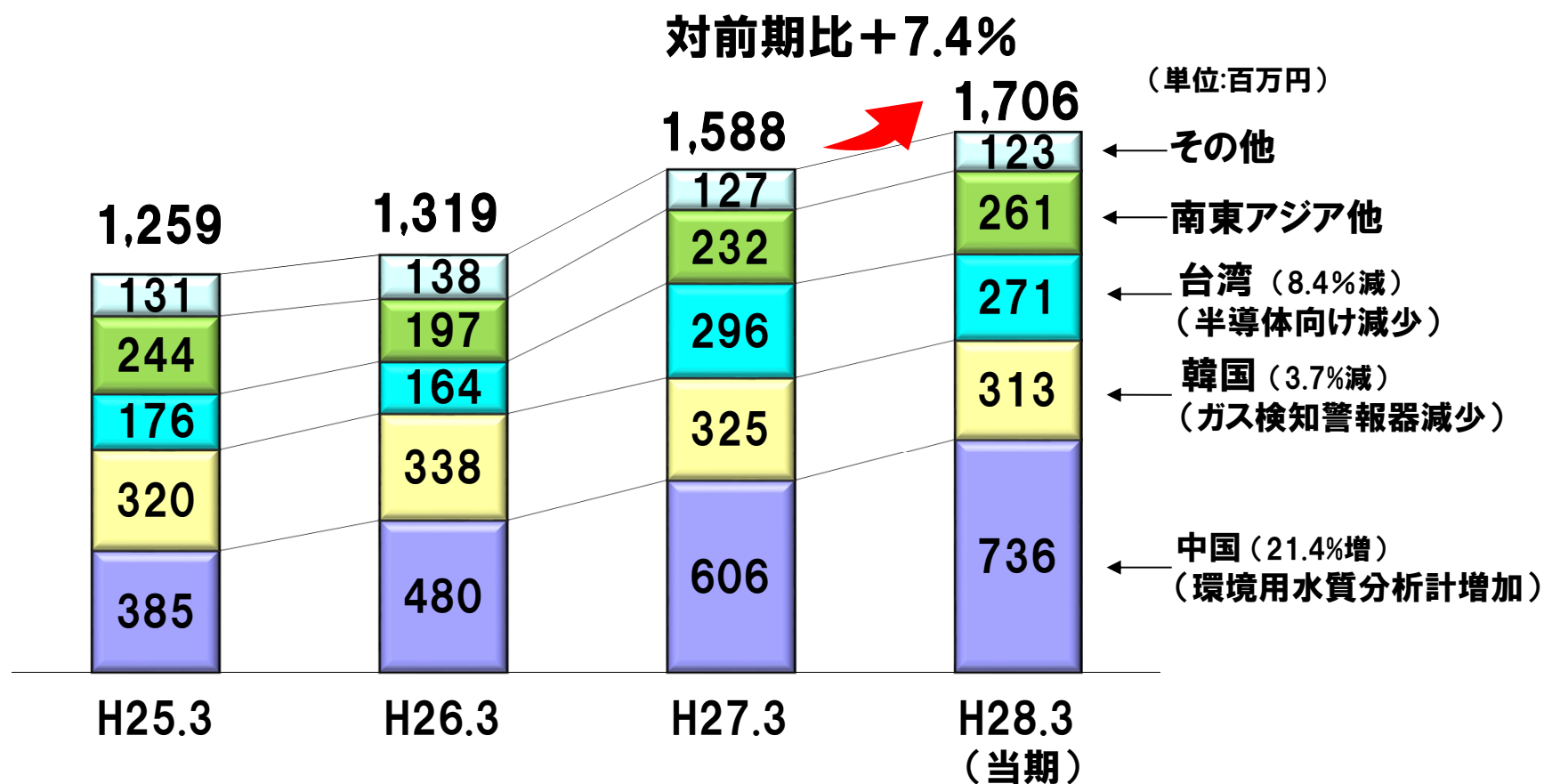
# 事業分野と売上構成比



創立以来のpH計、電気伝導率計などの保有技術は幅広い用途を持ち、機器販売からアフターサービス(保守・修理)まで手掛ける一貫体制。



海外において受注活動を積極的に展開し、中国向け環境用水質分析計を中心に好調裡に推移し増収。



# 平成29年3月期業績予想



## ■計測機器事業:

### \*国内市場向け売上

- (1)環境・プロセス分析機器:環境省第5次水質総量規制時に導入した機器の更新需要の本格化に対応し、売上増を見込む。
- (2)科学分析機器:新製品(Xシリーズ)の販売が順調で、売上の回復を見込む。
- (3)HACH製品:組織改変で営業活動活発化
- (4)医療関連機器:透析装置メーカー各社へのOEM化促進

### \*海外市場向け売上

- (1)中国:環境水質分野に加え、大気・排ガス分野への進出
- (2)韓国・台湾・アジア地区一円への営業技術活動の活発化

## ■不動産賃貸事業:狭山賃貸借物件の解約に伴い売上減少

利益については、上記の不動産賃貸事業の売上減少と計測機器事業の海外戦略等の販売管理費増加により、減益を予想しているが、更なる改革運動を推進し、一定の利益を確保する。

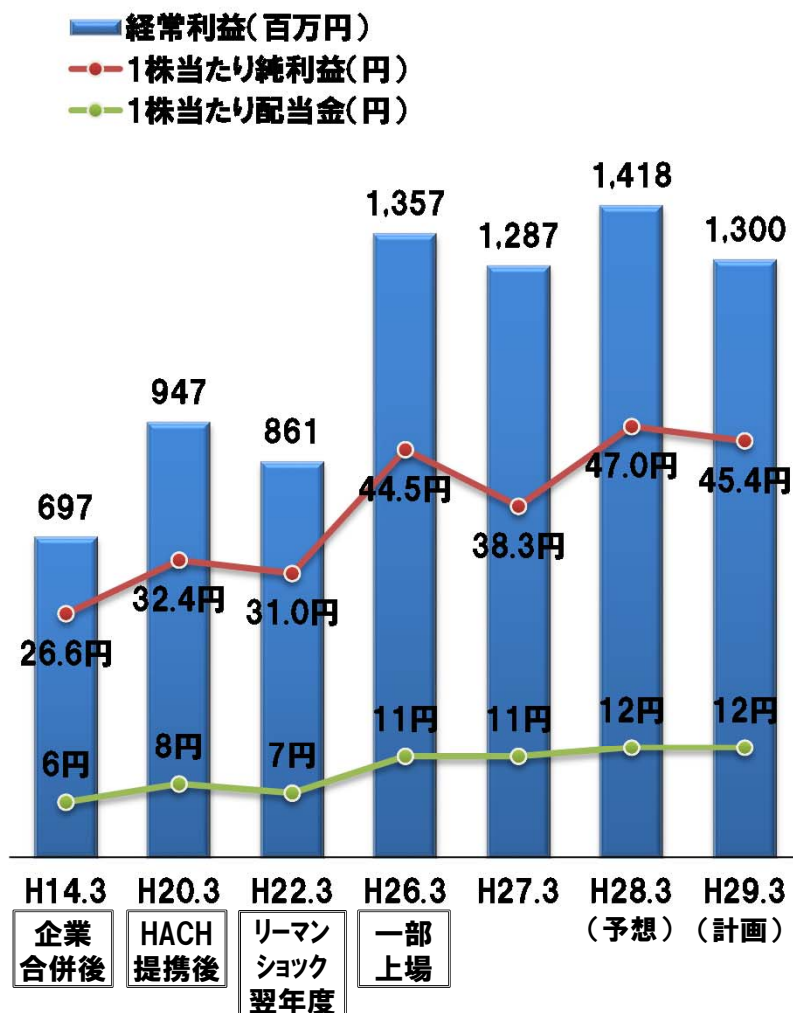
(単位:百万円)

|           | H28.3 実績 | H29.3 予想 | 増 減  |       |
|-----------|----------|----------|------|-------|
|           |          |          | 金額   | %     |
| 売 上 高     | 14,326   | 14,500   | +174 | +1.2  |
| 営 業 利 益   | 1,367    | 1,200    | △167 | △12.2 |
| 経 常 利 益   | 1,418    | 1,300    | △118 | △8.3  |
| 当 期 純 利 益 | 931      | 900      | △31  | △3.3  |

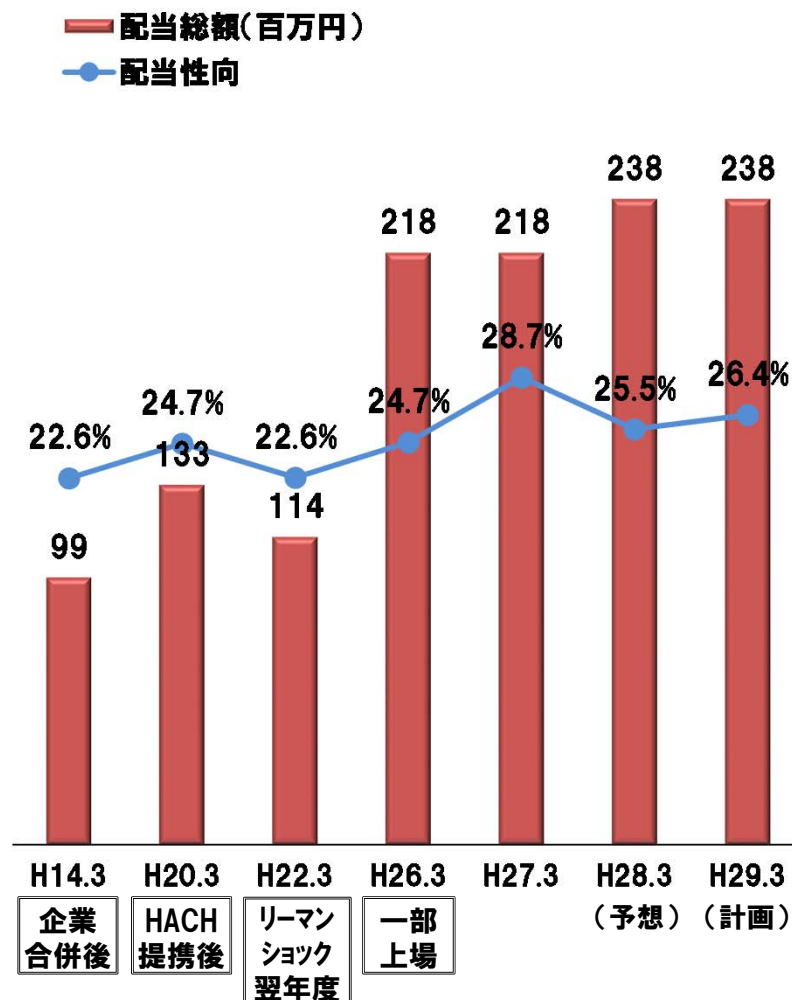
# 株主還元推移



## 経常利益・1株当たり純利益と配当金



## 配当総額・配当性向



# トピックス(1)中国市場への販売強化



## ～中国企業2社と環境用大気測定装置の技術合作と販売提携で合意～

### 「重慶川儀自動化股份有限公司」

平成28年3月14日、中国大手の計測器メーカーであり国営企業でもある「重慶川儀自動化股份有限公司」(本社:重慶市)と、環境用大気測定装置の技術合作及び販売提携契約を締結しました。

中国全土に強力な販売ネットワークと技術サービスを持つ同社との提携により、今後の中国での環境ビジネスの拡大を図ります。



### 「北京牡丹聯友環保科技股份有限公司」

平成28年4月23日、中国で排ガス測定器市場で高いシェアを持つ「北京牡丹聯友環保科技股份有限公司」(本社:北京市)とVOC(揮発性有機化合物)\*排出規制に適應した測定器の技術合作及び販売提携に合意し、北京市内の釣魚台國賓館で調印式を執り行いました。

当社は経験豊富な環境保全技術を提供し、中国でのVOC規制市場への参入を図ります。



\*VOC(揮発性有機化合物:Volatile Organic Compounds) 出典:日本国環境料省のHP

- おおざっぱに「有機溶剤」と考えて良い。(揮発性を有し、大気中で気体状になる有機化合物の総称)
- 日本での代表的な物質としては、トルエン、キシレン、酢酸エチル、メタノール、ジクロロメタン等約200種類の物質がある。

**2016年5月25日放送のNHK BS1のニュース番組「キャッチ！世界のトップニュース」内の、「日本企業を狙え～増加する中国の外国企業買収」において、当社の中国での事業展開が紹介されました。**

報道内容は、日中企業提携という大きなテーマの中で、日本企業が積極的にチャンスをつかみに行く前向きな事業展開として、当社の中国企業との環境用大気測定装置の技術合作と販売提携（詳細は前頁）について取材を受け紹介されました。



中期経営計画

# “第2次HYBRID経営計画”

(平成28年4月1日～平成31年3月31日)

当社の経営課題は**2つ**。

- (1) **量的拡大**
  - (2) **質的向上**
- 同時(挑戦)解決(**二刀流経営**)



両課題を克服するため、**次の3つの経営基軸(3本の矢)**に資源を集中投資。

- (1) **開発戦略投資** (成長分野と成熟分野)
- (2) **海外戦略投資** (海外事業と接近戦略)
- (3) **人財開発投資** (社員総活躍への教育)

しかし、この3ヵ年の第2次HYBRID経営計画の達成には幾多の実現困難性ありと覚悟する必要がある(**2課題と3投資**への依拠計画である)。

ただし、「**困難**」より「**未来**」と「**期待**」が大切と考えている。

従って、社長として期待する社員像(全社員の総活躍で頭脳の若返り)を訴える。

## 基本方針

**新分野開拓で売上高の拡大を図り、頭脳集団で収益力の拡大を図る**

- (1)お客様・株主様・社員の声を成長の原動力とする限界突破の経営。
- (2)現事業3本柱に成長市場の医療事業を加え4本柱に事業拡大する。
- (3)企業の未来を変える3本の矢「開発・海外・人財」重点投資する。
- (4)グループ全社員の仕事を全世界に拡大無限のお客様を創り出す。
- (5)世界最高水準の頭脳集団をつくり世界に役に立つ企業を創造する。

## 経営方針

**世界最高水準の頭脳集団で全社員の仕事を全世界に拡大、無限のお客様を創り出す独自経営**

- (1)独自のコア技術で世界最高水準の製品群を開発する。
- (2)独自の営業力で世界最高水準のサービスを提供する。
- (3)企業全領域の品質(挨拶含)を世界最高水準にする。
- (4)女性の活躍・シニアの技術を収益拡大に直結させる。
- (5)国際市場でお客様に選ばれるブランド力を創造する。

## 成長戦略

**企業全領域を独自化させお客様に選ばれる経営**

**－社長直轄の経営戦略部を設置、質の高いグローバル戦略を立案する－**

**(1)開発戦略・・・開発3本柱に医療分野を加えた4本柱に事業拡大を図る。**

**－製品の統廃合を強力に推進、経営資源を開発に集中させ開発期間短縮－**

**(2)海外戦略・・・中国・東南アジア・中東に重点投資売上拡大を図る。**

**－海外の質の良い代理店・特約店を戦略的に拡大、拡販体制の確立－**

**(3)人財戦略・・・全社員が総活躍出来る国際感覚を身につけ限界突破する。**

**－人財開発センターを新設、異業種先生による質の高い教育の実施－**

## 重点課題

**(営業)・・・国際感覚を身につけ「質と量」を高め商談数を2倍に**

**(開発)・・・グループ全体で開発体制分担、新超速開発体制の構築**

**(生産)・・・親会社と子会社の生産体制を戦略的に明確化し改革断行**

**(品証)・・・同じ不良を二度と起こさない仕組み、仕掛け**

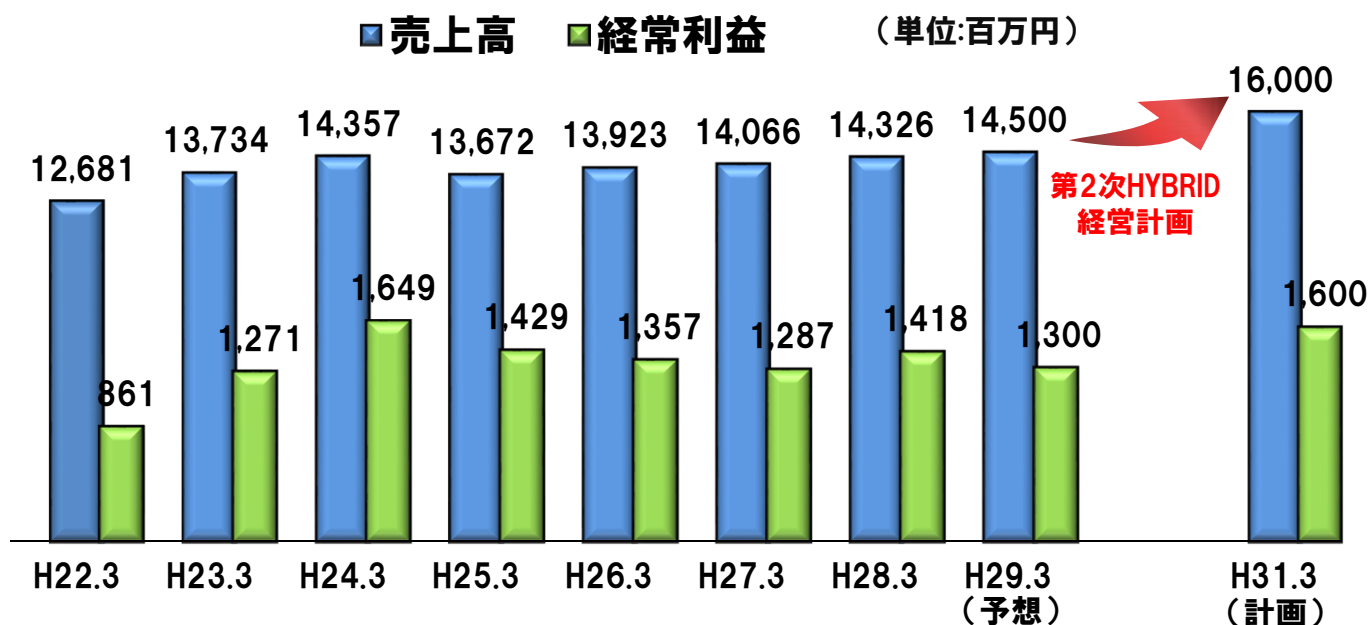
**(管理)・・・全社員が総活躍の頭脳集団を創り期待以上の成果を出す教育**

## 第2次HYBRID経営計画 目標値



### 平成31年3月期経営目標値(連結)

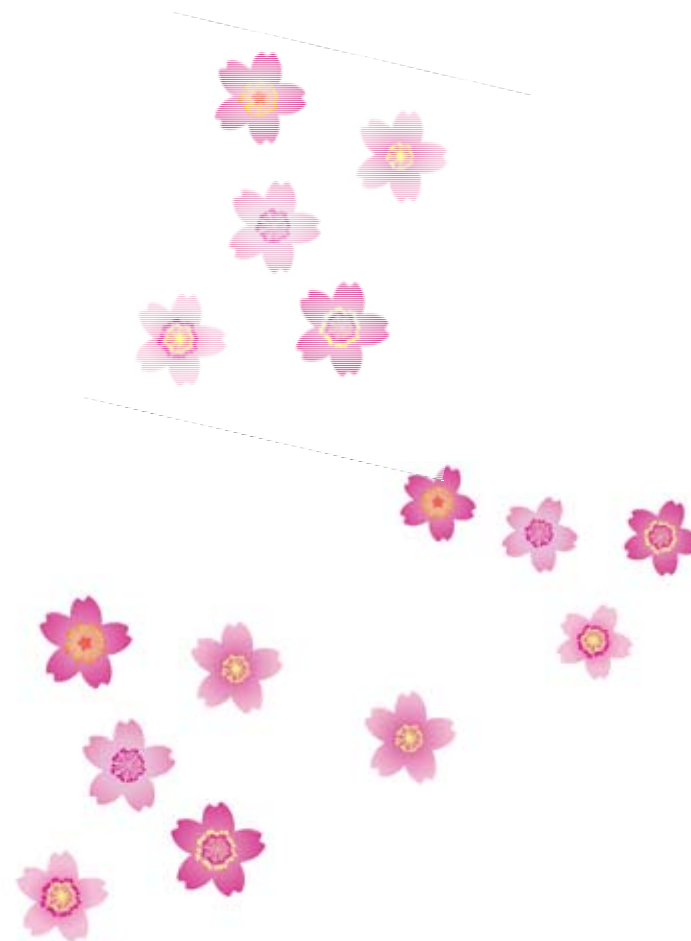
- ① 売上高：16,000百万円
- ② 経常利益：1,600百万円(経常利益率10%以上)
- ③ 海外売上高比率：20%以上
- ④ 新製品革新率：25%
- ⑤ 棚卸資産回転率：10回転以上
- ⑥ 外部不良直接費：40百万円以内
- ⑦ 自己資本利益率：10%以上



宿願の単月黒字化連続達成(79から80台へ)



泣くまいぞ  
晴れて続ける  
単黒化



1. 本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
2. 本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
3. 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。
4. 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
5. 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、皆様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

＜お問い合わせ＞  
東亜ディーケーケー株式会社  
経営企画部 企画・IR課

電話:03-3202-0242  
メール:ir@toadkk.co.jp  
URL:<http://www.toadkk.co.jp/>